

戦人塚

大字前後字仙人塚一七三番地の墓地にある。前後部落の西端、東海道の北方耕地を隔てて約300米の位置にあり小松の生えた頂上は約5間四方の塚である。その中央に三尺八寸、方七寸の石柱があり、外に史蹟「戦人塚」の石柱及び注意書の札がたててある。塚上の石柱は南面戦人塚北面不明東面永禄3年庚申5月19日西面南無阿弥陀仏と記されてある。この石碑を建てた年月日は不明であるが元文4年この塚で180回忌の供養を営んだ際に建碑されたものである称に思われる。里伝では永禄3年5月桶狭間の戦に曹源寺二世快翁龍喜和尚ここに戦死者を葬り供養した塚で東軍の死者2500余人といふ。昭和12年12月21日桶狭間古戦場伝説地と共に大部大臣より史蹟として指定されている。

今川義元の墓

大字崇字南館にあり往古はやがたはざま(屋形狭間)(飯狭間)といっている。南方がやや開け三面は丘陵起伏の地、12坪の方形の築地に碑がありこれが今川義元の墳墓で戦后130年間にたゞ塚を残すのみであったが明治10年愛知県令安場保利が有志と謀り大いに修繕を加え一基の碑を建てて今日に至った。碑の正面はくぼんでいて「今川治部大輔義元墓」と刻んである。屋形狭間とは当時義元の称がお飯様即ち館(屋形)といわれていたからという。

松井兵部少輔宗信墓

今川義元の墓より100米程東南の高地にあり三坪程の地に方形の築地をなす。義元の部将であつて義元が戦死し東軍これが為めに四散するも松井兵部は井伊直盛等と屯して大いに奮闘し遂にえに死し全軍殆んど滅びた。松井は奮戦の結果かき従軍としてこの場に果てた。ここはその死骸を葬った所である。

五墳

三河七騎の墓と称し戦没した義元の墓より17間余の東にあり今は七坪五合の円形の蟻垤の五箇経路の左右に散在しその五墳を残すのみである。

これは今川義元の墓下で、この役に戦死した者の屍を埋めた所である。余の二墳は詳細でない。或いは七墳というのはこの五墳と義元・松井の二墳を加えての事であるともいう。

桶狭間弟古碑

登高原眇遠慨難輿敗于前跡何因費有余独悲此桶狭云。記曰永禄三年今川侯西征五月十九日陣桶狭山。北織田公以兵襲之、今川侯義元滅夫、勇安河強國也。方其國霸相模甲斐請以貳從、尾張人亦往々送款、於是大率入尾張攻鷺津丸根拔之、明日屠清洲、而朝臣衆皆賀置酒、軍中會黑雲起西北風雨暴發、敵人鼓聲亦從背震、皆不意其猝突至、中軍大乱格闘、死者二千五百余人矣。自足利氏失鹿四海戰場大内以後亡武田以暴滅而未有若此一戰而跌者也。勝敗如此、誰知其極、但勝之不可保、知可驕哉、悲也。夫雖然、或謂軍敗自先鋒還、與卒二百人皆死、或守孤城不降、請主尸而歸、若斯類者、累世所養、豈不皆忠烈哉、籍使後人有肅王之村外、結強援、內用若士師徒、雖奮馬駿河、遠泛之地、尚全猶足以向西報伐也。遊蕩忘警、卒以播遷、悠悠蒼天、此何人哉、今生乎世、眇歎前跡、已歷二百五十年、時雖遼邐、事猶昨也、則後人弟之、亦猶今爾、則是千萬世、亦何有極、請建碑以記之、銘曰。三軍覆野、茫々孰有後、孰孤傷連片碑、酹古邱、來弟之千萬秋。故思治已、值今時、治不忘亂、視旧跡、碑文化13年己巳夏五月尾張儒官秦斯撰大坂天滿中西融書

桶狭間懷石

嗚呼悲哉、虎丘途疎松摧殘、月野草蕉荒、泪如達家有而君無、人見幾邑桶狭間古戰場

戰虎將軍何得全、荒原吊古左墳前、怪風吹雨直如晦、驚破寄兵降自天

西遊紀行別錄

太田錦城

駿主南侵此接兵、氣吞張海欲橫行、握奇先贊斬三士、間宴諺降五城

豈料將軍朝謁朝、還提騎卑夜衝宮、孤墳長對千人塚、遊子空懷吊古情

熊坂台州

香川景樹

参考地圖

